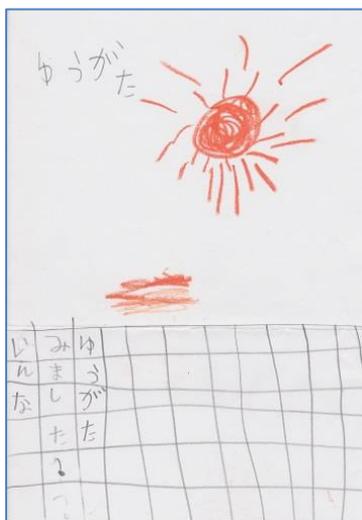


心をつなぐ豊かなことばの世界を

元 小学校特別支援学級担任

竹上 道邦



朝一番のおはなしの時間、絵本の読み聞かせ。おしゃべり好きな学級をめざして取り組んでいます。

「聞いて」「あんな」「僕はな・・・」「ふーん、いいなあ」まだ文字が書けない子どもたちも、思い思いに絵で表現します。質問も飛び交って話はどんどん広がっていきます。

「せんせい、これ！」

「なんもない」「ないしょ」と、いつもはあまりしゃべらないKくんが手作りの絵日記を渡してくれました。

お母さんに聞くと、夕方の買い物の後、車の中から見た夕焼けがとてもきれいだったので、みんなに教えたいと、自分から紙をさがして、描いたそうです。

「ゆうがた みました！いんな (いいなあ)」

Kくんの感動とみんなに伝えたいという思いが心に伝わってきました。

「しゃべれるように」「文字が書けるように」と、ことば・文字への保護者の願いはとても強いです。ことば、文字は、人とつながる、文化とつながる大事な基礎的な力だからです。障がいのある子どもたちは、〇〇ができない、発達が遅れているからと、授業は勢い、子どもたちの心を置き去りにして、させる活動になってしまうことがあります。

〇〇できるようにと反復練習。プリントでなぞり書き、絵カード、発声練習。

うまくできないダメな自分を積み重ね、それが、かえって子どもたちの意欲をなくさせていることも多いです。

最近の国語の教科書では、めっきり文学作品が減り、活用・表現技術を教える内容が多くなっているようです。ことばの豊かな世界を楽しみ、一人一人の思いを大事につなぐ授業を大事にしたいと思います。

## 2学期末のKくんの日記より

「サンタは みんなが めをあげたら はずかしです。」

サンタの心にも、思いをはせて・・・。

